

経済概況

金融政策レビュー - 2025年2月

2025年2月19日(水)

「金融政策委員会は本日、政策金利(OCR)を50ベースポイント引き下げて3.75%とすることで合意した。」

理由:

「年間消費者物価インフレ率は、金融政策委員会が目標範囲内とする1.0%~3.0%の中間点付近に保たれている」

良いニュースは:

「経済成長は2025年中に回復する見込み」であり「経済状況が予測通りに推移する場合、委員会は2025年中のさらなるOCR引き下げを視野に入れている」

一方、世界的な見通しは依然として軟調:

「世界の経済成長は当面抑制されたままになると予想される。貿易障壁の不確実性を含む地政学的要因により、グローバルな成長が弱まる可能性が高い。また、地理経済の分断化が進む中、世界の経済活動も中期的には脆弱なままであろう」

警告も:

「ニュージーランドの消費者物価インフレは、為替の低下と燃油価格の上昇により、短期的に不安定になると予想される。今後の貿易政策の変化がニュージーランドのインフレに及ぼす実質的な影響は、現時点では不透明である」

最後に...

「経済状況が予測通りに推移する場合、委員会は2025年中のさらなるOCR引き下げを視野に入れている」

コメント:

表裏一体、といったところでしょうか。

RBNZがOCRを50bps引き下げて3.75%にしたことは朗報と言えます。引き下げに転じて以来、ここに至るまでに計175bpsがカットされたこととなります。加えて、経済状況がRBNZの予測通りに推移し続けるなら、OCRをさらに引き下げる用意があることを認め、前向きな内容で声明が締めくくられています。現在の予測では、2025年に2回、25bpsの利下げが見込まれています。また、中央銀行によると、暦年末に3回目の利下げでOCRを3.1%とし、2028年までこの水準を維持する可能性もあります。これが現実となる確率は半々と考えられます。

ただ、声明はこういった明るい情報だけでなく警告も発しており、インフレ率が依然不安定で、今年のピークが予測されていた2.5%ではなく2.7%になるという中央銀行の見方に触れている点で、ハト派的な印象を受けます。「全体的に、貿易政策の影響でニュージーランド経済の成長率が下がる可能性が高く、ニュージーランドのインフレをどう左右することになるのかはかなり不透明である」と述べているところからは、中央銀行が貿易戦争の可能性を考察に入れていることも窺えます。

マーケットへの影響:

50bpsの引き下げ予想もありましたが、輸入インフレが問題になる可能性を警告しつつ、さらなる利下げを期待させる声明はバランスが取れたものでした。これにより、NZドルは米ドルに対してやや軟調となり、Q&Aに先立って0.5680ドルに落ち着きましたが、NZD/AUDは0.8950ドルと3ヶ月ぶりの安値に下落しました。年末までにOCRが3.0%へ向かうことを期待して、スワップレートはカーブ全体で5~6bpsと若干低下しています。

* 日本語翻訳文と英語の原文に相違がある場合には、原文の記載事項を優先します。



BANCORP

BANCORP TREASURY SERVICES LIMITED

Barrington
TREASURY SERVICES

Barrington
ASSET CONSULTING



BANCORP

BANCORP CORPORATE FINANCE LIMITED